Ｄｅｓｉｇｎ

～ 換 気 を 徹 底 し ま し ょ う ～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

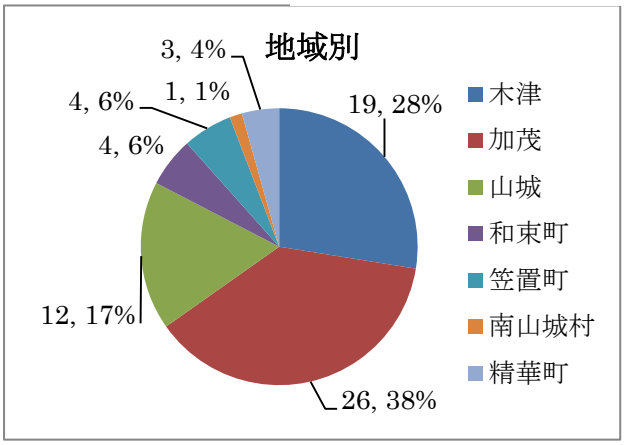
Ｄｅｓｉｇｎ号外７７号です。ケアプランセンターやましろからのお知らせなどを掲載しています。（地域医療連携室 室長 南出　弦）

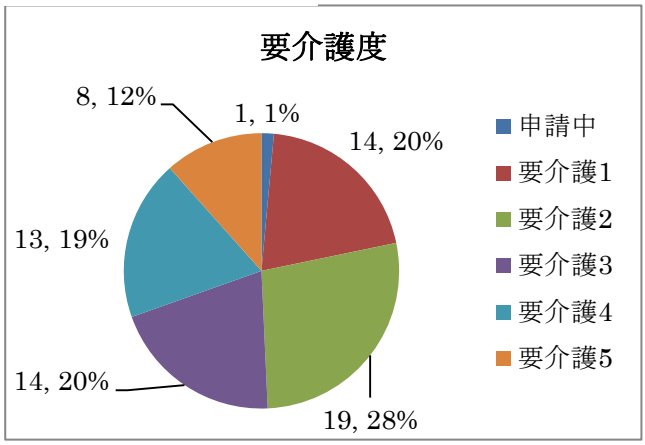
令和４年度 ケアプランセンターやましろの現状報告

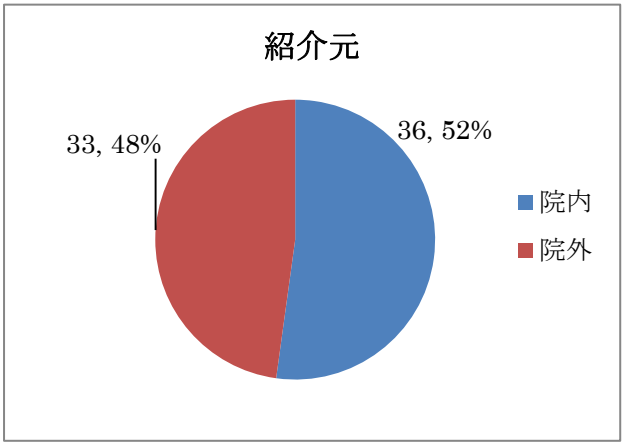
～ 開設して１年が経ちました ～

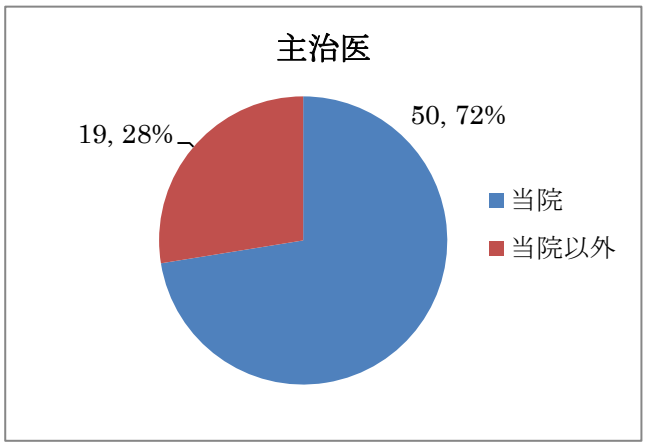
令和４年４月、ケアプランセンターやましろを開設し、地域の皆様のご理解・ご協力もあり、１年を迎えることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。当初は、管理者兼主任介護支援専門員１名体制でしたが、昨年１２月からは１名増員となり、現在は２名体制となっています（現在、契約者数は６９名となっています）。引き続き、ケアプランセンターやましろとの連携についてご協力頂きますようお願い申し上げます。（南出）

田中ケアマネジャー（左）と松村ケアマネジャー









訪問看護指示書のご依頼について

～ ご協力お願い致します ～

訪問看護指示書のご依頼頂く際、患者様（ご家族様）に、指示書費用が発生することを事前にお伝え頂きますようお願い致します。まれに、費用が発生することをご存知でない患者様がおられ、対応させて頂くことがあります。また、指示書作成のご依頼を頂戴してから医師が記載し、指示書を発行するまでに時間がかかることから、早めに指示書のご依頼を頂きますよう重ねてお願い致します。

地域医療連携室より

～ 回復期リハビリテーション病棟の良いチーム ～

令和５年４月に回復期リハビリテーション病棟（３４床）が開設し、２ヶ月が経過しました。当院急性期病棟からの受け入れや他病院の皆様からのご紹介により、順調に患者さんが増えています。地域医療連携室からは、堀井ソーシャルワーカーと中野ソーシャルワーカーが回復期リハビリテーション病棟の運営に関わってくれていますが、毎日実施される入院判定会議やカンファレンスへの参加など、頑張ってくれています。

懸架システム

当院の回復期リハビリテーション病棟の“ウリ”は、京都府立医大学大学院リハビリテーション教室が運営にご協力を頂いていることや、患者さんが歩行訓練の際に使用される懸架システムを導入していることなどです。懸架システムとは安全ベルトを装着し、上から吊るすことで患者さんの体重を減らした状態で歩行訓練ができるシステムで、転倒の危険性がないことから積極的に歩行訓練が可能となります。

さて、先日、オンラインで退院前カンファレンスが実施されるとのことで、セッティングの手伝いを兼ねてカンファレンスを見学させてもらいました。回復期リハビリテーション病棟のセラピスト・看護師・介護士・ソーシャルワーカーと患者さんご本人が一同に集まり参加し、オンラインではご家族や担当ケアマネジャー、退院後にリハビリテーションを担って頂く事業所の方、当院のリハビリテーション科医の伊藤先生が参加されていました。入院中の様子や退院後の注意点などを引き継がせて頂き、カンファレンスの翌週にはご自宅に退院されましたが、カンファレンスの中での、当院のスタッフ同士や患者さんとのやりとりの雰囲気が良く、手前味噌にはなりますが、「良いチームやん」って思い、嬉しくなりました。きっと、昨年から回復期リハビリテーション病棟開設準備で培ったチームワークの賜物なんだろうと思います。そして今後は、患者さんやご家族からも、「良いチームやん」って言って頂けるようになればと思います。

地域の関係機関の皆様とは、カンファレンスなどを通じて連携を取らせて頂く機会も多々あるかと思います。ご意見・ご要望などがありましたら、遠慮なくお知らせ下さい。

（地域医療連携室　室長　南出　弦）